

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村(15年目)

1 事業概要

大学生は、11月20日～11月21日でリーダーシップや子供への接し方、集団作りの技法、伝承文化について学んだ。22日～26日で「子どもむかし生活体験村」に向けた企画や準備を行った。27日～28日には、小学生とともに過ごしながらか「子どもむかし生活体験村」を運営することで、リーダーとしての資質を身に付けるとともに、自分達が学んだことを子供達に伝えることができた。

2 事業の目的(ねらい)

地域を大切にし、地域に根ざして活動するリーダーが求められている中で、愛媛の伝承文化を学び、先人の知恵と自然体験の融合した体験活動をすることで、地域を大切にしようとする心を育むとともに、「子どもむかし生活体験村」を自ら計画し、運営することで、地域に根ざして活動しようとするリーダーを養成する。

3 企画のポイント

新型コロナウイルス感染症の影響により、年度当初の計画から日程や活動場所を大幅に変更することとなった。感染対策として、宿泊場所を国立大洲青少年交流の家とし、活動場所も交流の家周辺の地域とした。また、事前の説明会や課題の提出、企画や準備等もオンラインで行った。

伊予の伝承文化を学び伝える視点として、歴史的文化財の保護や継承に着目した。大洲史談会副会長の澄田氏や八日市・護国町並保存センター主査の池田氏に講師を依頼し、大洲城の復元や上芳我邸の保存について学生が学ぶための機会を設定した。

4 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
国立大学法人 愛媛大学

5 後援 愛媛県教育委員会 大洲市教育委員会

6 期日 10月13日(水)(16:30～ZOOMによるガイダンス)
11月20日(土)～11月21日(日)(「伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村」)
11月27日(土)～11月28日(日)(「伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村」・「子どもむかし生活体験村」)

7 場所 国立大洲青少年交流の家、上芳我邸、大洲城

8 参加人数 大学生10名
〔子どもむかし生活体験村 小学校4～6年生20名(募集人数20名)〕

9 講師 澄田 恭一 氏(大洲史談会副会長)
清水 大輔 氏(愛媛県教育委員会社会教育課社会教育主事)
池田 あかり氏(八日市・護国町並保存センター主査)
玉井 義幸 氏(国立大洲青少年交流の家研修指導員)
高橋 平徳 氏(愛媛大学准教授) 日野 克博 氏(愛媛大学附属中学校長(兼)教授)
山崎 哲司 氏(元愛媛大学教授) 国立大洲青少年交流の家 職員

10 日 程

<11月20日(土)>

8:55 送迎バス 大洲駅を出発
9:15 受付
9:30 開村式・アイスブレイク・役割分担決定
10:30 自然体験活動(リーダーズプログラム②(*1)の实地踏査)
12:00 昼食
13:00 歴史体験活動 フィールドワーク①(大洲城と周辺地域)
15:15 歴史体験活動 フィールドワーク②(上芳我邸と周辺地域)
17:15 検温・夕食・入浴
19:00 講義(*2)
20:00 リーダーズプログラム①(*3)の計画・リフレクション・情報交換
22:30 就寝(国立大洲青少年交流の家)

(*1) 鶴ヶ森を舞台にした自然体験活動

(*2) 講義内容:「リーダーや教師に求められるもの」、「ボランティア活動の意義」

(*3) キャンドルサービス

(*4) 「子どもむかし生活体験村」を運営していく上での班、係、ルール等についての話し合い

<11月21日(日)>

6:30 起床・検温・清掃・朝食・退所点検
9:00 普通救命講習Ⅰ
12:00 昼食
13:00 昔遊び体験
14:00 子どもむかし生活体験村の準備(*4)
15:30 リフレクション
16:00 解散
16:15 送迎バス 青少年交流の家を出発

<11月27日(土)>

8:55 送迎バス 大洲駅を出発
9:15 受付
9:30 小学生の受入準備
10:30 小学生の受付
11:00 開村式・アイスブレイク
12:00 昼食
13:00 歴史体験活動(大洲城と周辺地域)
15:15 昔遊び体験活動・目標づくり
17:00 検温・夕食・入浴
19:00 キャンドルサービス(リーダーズプログラム①)
20:30 小学生 就寝準備
21:00 リフレクション・翌日の準備
22:30 就寝(国立大洲青少年交流の家)

<11月28日(日)>

6:30 起床・検温・清掃・朝食・退所点検
9:00 自然体験活動(リーダーズプログラム②)
10:30 午後の発表の準備
12:00 昼食
13:00 小学生 発表練習
13:30 2日間の思い出発表
14:00 開村式・見送り
14:30 リフレクション
16:00 送迎バス 青少年交流の家を出発

11 活動内容

【11月20日(土)】

「開村式・アイスブレイク・役割分担決定」

講師: 国立大洲青少年交流の家職員

参加者の緊張をほぐし、「子どもむかし生活体験村」で行われる「仲間づくりゲーム」での指導方法を学んでもらうため、グループワークゲームを実施した。

「自然体験活動(リーダーズプログラム②の实地踏査)」

講師: 国立大洲青少年交流の家職員

学生達は、自然体験活動の意義や活動プログラムを企画する際の留意点、安全管理等について学んだ。後半の企画では、学生ならではの柔軟な発想でアイデアを出し合い、リーダーズプログラム②の大まかな企画を立てることができた。

「歴史体験活動 フィールドワーク①・②」

講師: 澄田 恭一 氏(大洲史談会副会長)

講師: 池田 あかり 氏(八日市・護国町並保存センター主査)

澄田氏から大洲城の歴史や周辺地域の史跡、大洲城が復元されるに至った経緯等を、池田氏から上芳我邸が和蠟燭の原料加工で栄えた歴史や上芳我邸の保存運動等について学んだ。学生達は積極的にメモするとともに、「子どもむかし生活体験村」で自分たちが学んだことをどのように子供達に伝えるか構想を練っていた。



「リーダーや教師に求められるもの・ボランティア活動の意義」

講師: 清水 大輔 氏(愛媛県教育委員会社会教育課社会教育主事)

リーダーとしての心構えや安全管理、事業に参加することで得られる学び等について清水氏から学ぶことができた。

「リーダーズプログラム①の計画」

講師：玉井 義幸 氏（国立大洲青少年交流の家研修指導員）
リーダーズプログラム①として、キャンドルサービスの構成や楽しむための手法について玉井氏より学ぶことができた。



【11月21日（日）】

「普通救命講習Ⅰ」

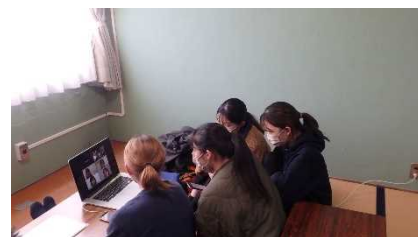
講師：国立大洲青少年交流の家職員
心肺蘇生法やAEDの使用法、三角巾を用いた止血法などを職員より教わった。緊急時に対応できるように、全員が真剣な表情で取り組んでいた。

「昔遊び体験」

講師：国立大洲青少年交流の家職員
職員より竹馬、羽子板、剣玉、お手玉、輪ゴム鉄砲等、交流の家にある遊具の紹介を受けて一通り体験した後、学生同士でアイデアを出し合いながらプログラムの計画を立てた。

「子どもむかし生活体験村の準備」

講師：高橋 平徳 氏（愛媛大学准教授）、
国立大洲青少年交流の家職員
部分参加となった学生とオンラインで打合せをしながら、子どもむかし生活体験村の準備を進めていった。2日間を出し合ったアイデアを1週間の準備期間で具現化するために役割分担や準備物を確認するなど、学生は意欲的に取り組んでいた。



【11月27日（土）】

「『子どもむかし生活体験村』開村式・アイスブレイク」

学生達は、開村式やアイスブレイクの進行を自ら行った。アイスブレイクでは、担当者はもちろん、他の学生達も協力して子供達の緊張を上手にほぐし、すぐに打ち解け合う姿が見られた。



「歴史体験活動」

11月20日に学んだことをもとに、プログラムを担当する学生が、子供達にクイズ形式で興味・関心を高めながら分かりやすく説明した。クイズの出題や説明時に子供達全員に声が行き届くよう拡声器を使ったり、自作の大型イラストを提示したりするなど、学生達は事前の準備を万全にした上で歴史体験活動に臨んでいた。

「昔遊び体験活動」

子供達は①巨大かるた、②お手玉、輪ゴム鉄砲、羽子板、剣玉を使ったミニ運動会、③ケイドロをして班ごとに得点を競いながら昔遊びを体験することができた。これらの企画も担当の学生が中心となって企画し、他の学生も協力して準備していた。



「目標づくり」

班ごとに目標を立て、代表の子供が発表した。大学生は、話合いの時には小学生から意見を上手に引き出し、発表の時は発表者を優しく見守ったり励ましたりしていた。子供達は学生達の支えもあり、自分達の班の目標をしっかりと発表できていた。

「キャンドルサービス（リーダーズプログラム①）」

子供達が入浴をしている時間に、プログラム担当の学生は、玉井氏からいただいたアドバイスをもとに入念な準備を行った。他の学生達も、本番が始まると、厳かな雰囲気を作ったり場を盛り上げたりして、皆が蝋燭の火を囲んで一つになることができた。

【11月28日（日）】

「自然体験活動（リーダーズプログラム②）」

野外炊飯場周辺の山をコースとして、子供達はウォークラリー形式で班ごとにチェックポイントを回り、大学生が考えた問題に楽しみながら挑戦した。出発前には危険な生物や植物についても学生が説明し、研修で学んだ安全管理の知識が活かされていた。



「思い出発表・閉村式・リフレクション」

大学生が司会を務め、子供達が班ごとに保護者に対して思い出を発表した。短い準備時間にもかかわらず、子供達は堂々と発表することができた。また、小学生から大学生へのサプライズで歌と感謝の手紙が大学生に贈られた。学生達は感動して涙を流していた。



1 2 参加者の声

事業後アンケート結果（大学生10名、小学生20名）

【大学生】 *満足：90% *やや満足：10% *やや不満：0% *不満：0%

- チームで協力・連携することの大切さを学ぶことができた。
- 仲間、講師、職員、子供達から多くのことを学んだ。学んだことを今後に生かしたい。

【小学生】 *満足70% *やや満足：30% *やや不満：0% *不満：0%

- 想像していたよりもずっと楽しかった。またこのイベントに参加したい。
- 友達がたくさんできてうれしかった。大洲の歴史をみんなに伝えたい。

1 3 成果と課題

【成果】

大学生が仲間と協力することの大切さに気付けたこと、今後彼らが教師を目指していく上で学んだことを生かしていこうとすることは、事業の成果の一つと考える。

また、「子ども生活体験村」までに5日間の準備期間があったことで、学生達はしっかりと準備して本番に臨むことができた。その点においては、例年よりも日程の縮小や活動場所の制限はあったものの、事業の一つの在り方を示すことができたと思われる。

【課題】

大学生のリーダー性や子供達の社会性を育むというねらいにおいて、長期宿泊型の事業に効果があることは、既にこれまでの報告書に記されている。しかし、限られた予算の下、少ない職員数での運営に加え、新型コロナウイルス感染症の感染対策等も踏まえ、事業を継続させることを考えるにあたっては、今後、従来の長期宿泊型の実施だけではなく、今年度のように国立大洲青少年交流の家を拠点に日程を短くして活動し、成果を上げる工夫をするなど、事業の在り方を検討していく必要がある。

（担当：企画指導専門職 徳田 義実）